

50年を振り返る

令和4年4月1日に大野城市は50周年を迎えました。

半世紀という大きな節目を迎え、長い時間がたつにつれ多くのことが移り変わっていきました。

時代が移り行くなかで、変わったもの、変わらなかったものがあります。古き良きものを引き継ぎ、これからつないでいき、よりよいものを育んでいきます。

「大野城市」になる前は「大野町」でした

大野城市になるまで

明治22（1889）年、11村と井相田の一部が合併し、大野村として誕生しました（当時の人口は3855人、680世帯）。

昭和25（1950）年10月、町制施行により大野町となります（人口1万192人、1928世帯）。

町制施行の22年後、昭和47（1972）年、市制施行となり大野城市が誕生しました。

50年前と比べて

市制施行当時、人口は3万6757人、世帯数は9740世帯でした。現在の人口は、101841人、世帯数は45372世帯です。50年で人口は約3倍、世帯数は約4・7倍となりました。

（50年前は1972年3月31日時点、現在は2022年2月末時点）

50年前の市役所

当時の市役所を見てみると、市庁舎のほかに、中庭のプレハブと現在のまどかびああ場所に中央公民館がありました。

表紙などに掲載した昔の広報「大野城」は、行政資料室（市役所新館3階）で自由に閲覧することができます。

他にも昔の大野町、大野城市を振り返る資料も多くありますので、興味のある人は見に来てみませんか。



大野城市役所（市制施行、昭和47年）



下大利バス通り（昭和47年）



大利小プールと米軍春日原基地住宅（昭和52年）